

小島忠義の
議会通信

“かけ橋”

No.22



原発はいらない!?

原子力発電所の再稼働に関する議論は原発は廃止すべしと必要最小限の原発は必要と言う意見に分かれています。この問題はこれからの日本の進路を決める上で非常に重要な課題です。**命の安全と経済の発展**この2つに対してどちらに軸足を置くかということに言い換えることができます。

昨年の3・11の東北大震災により原発の安全神話は完全に崩れ去りました。代替エネルギーの確保も出来ていない現状で原発の再稼働問題を**YesかNoかだけの判断では済まされない**のがこの課題の難しいところです。

大飯原発の再稼働は決まったものの、国内50基の原発全てが停止状態にある中、今年の夏をどう乗り切るかも大事ですが、中長期的視点に立った議論こそ最も重要ではないでしょうか。

私の意見ですが、原発は危険だから直ちに廃止というのは短略的であり非現実的だと思います。先進国の中で原発が“0”の国はイタリアのみです。原子炉の基数に違いはあるものの殆どの国が原発を保有しています。

国内にある原子炉の危険度のレベルも同一ではありません。安全の目安とされる築30年以内の原発は30基(九電の玄海第2、第3原発も含まれます)あります。

今後の経済活動を支えるためにも一定程度の原発は必要ではないかと云うのが私の考えです。現在の安全基準に対してより安全と評価され、築30年以内の原発だけを再稼働の対象とする。同時に政府は**代替エネルギーに関する技術の確立**を一大目標に掲げ人材と予算を投入し**国家プロジェクトとして取り組む**。又、現在ブロック別に分かれている電力供給システムを見直し、全国を同一基準にした電力供給ネットワークで結ぶことで不足した地域へ電力の融通が簡単に出来るようにすることです。人類はまだまだ素晴らしい英知を持っているはずで**ピンチはチャンス**まさに今がその時ではないでしょうか。

